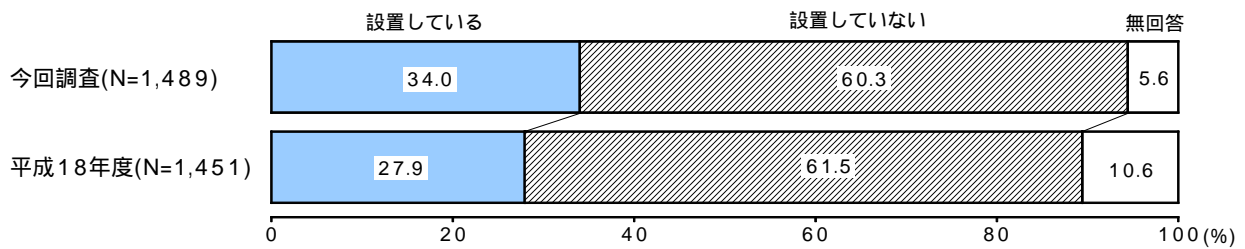


## 7 住宅用火災警報器について

### 7 - 1 . 住宅用火災警報器の設置の有無

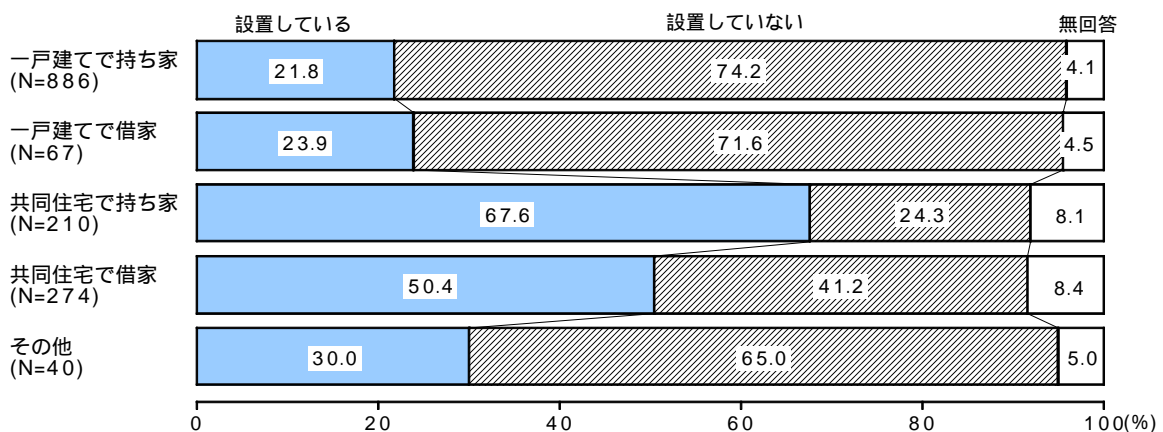
問 21 東大阪市では火災による死者を減少させる目的で、火災予防条例によりすべての家庭に住宅用火災警報器を設置することが義務付けられていますが、あなたのお住まいには取り付けられていますか。 条例では、平成 18 年 6 月 1 日の時点ですでに建っている住宅は、平成 23 年 5 月中までに設置すればよいとされています。

図 7 - 1 住宅用火災警報器の設置の有無



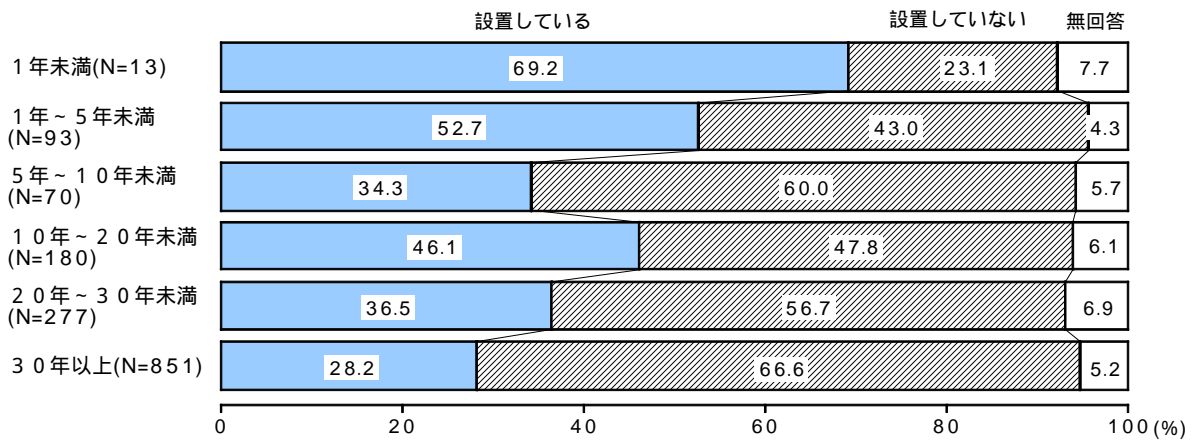
住宅用火災警報器の設置の有無について、「設置している」という人は 34.0%で、「設置していない」という人の 60.3%を下回っている。前回調査(平成 18 年)と比較すると、「設置している」という人は今回調査で 6.1 ポイント増加している。(図 7 - 1)

図 7 - 1 - 1 居住形態別 住宅用火災警報器の設置の有無



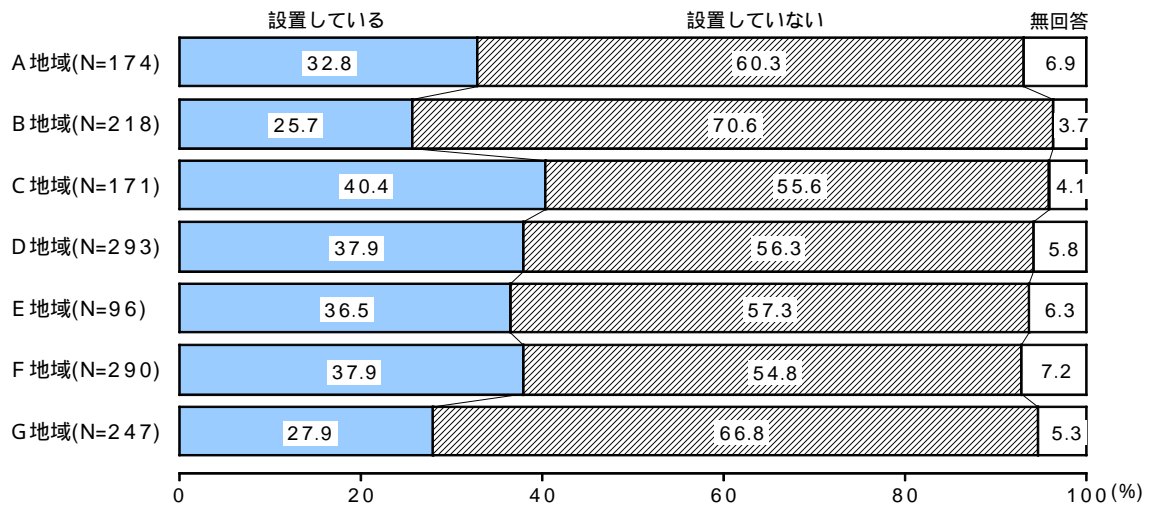
居住形態別にみると、「設置している」という人は共同住宅で持ち家で 67.6%と高く、共同住宅で借家でも 50.4%と半数を超えている。(図 7-1-1)

図 7-1-2 在住年数別 住宅用火災警報器の設置の有無



在住年数別にみると、「設置している」という人は1年未満の人で69.2%と高く、1年～5年未満でも52.7%と半数を超え、在住年数が短い方が設置している割合は高くなっている。(図7-1-2)

図 7-1-3 地域別 住宅用火災警報器の設置の有無



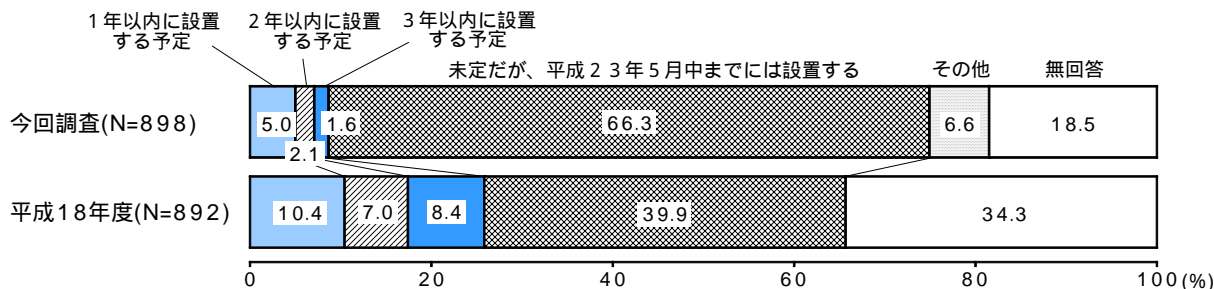
地域別にみると、「設置している」という人はC地域で40.4%と高く、次いで、D地域、F地域で37.9%となっている。(図7-1-3)

## 7 - 2 . 住宅用火災警報器の予定設置時期

【問 21 で「2 設置していない」と回答された方におたずねします】

問 21 - 1 住宅用火災警報器をいつごろ設置される予定ですか。あてはまるもの1つに 印をつけてください。

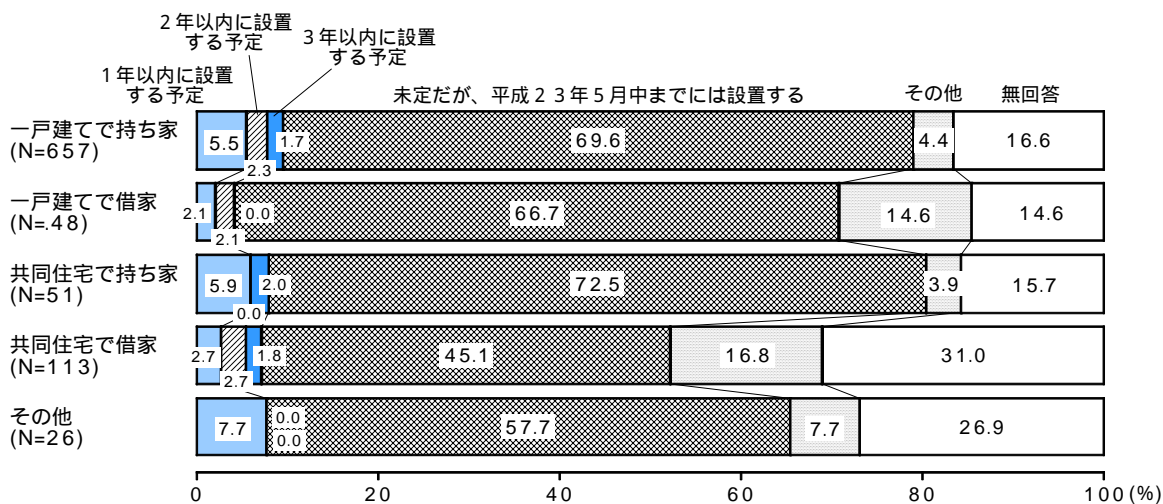
図 7 - 2 住宅用火災警報器の予定設置時期



平成18年度調査では「4年以内に取り付ける予定」、「5年以内に取り付ける予定」の項目が設定され「その他」の項目は設定されていない  
 「4年以内に取り付ける予定」2.1%、「5年以内に取り付ける予定」37.8%を合わせたものを今回調査「未定だが、平成23年--」と比較している

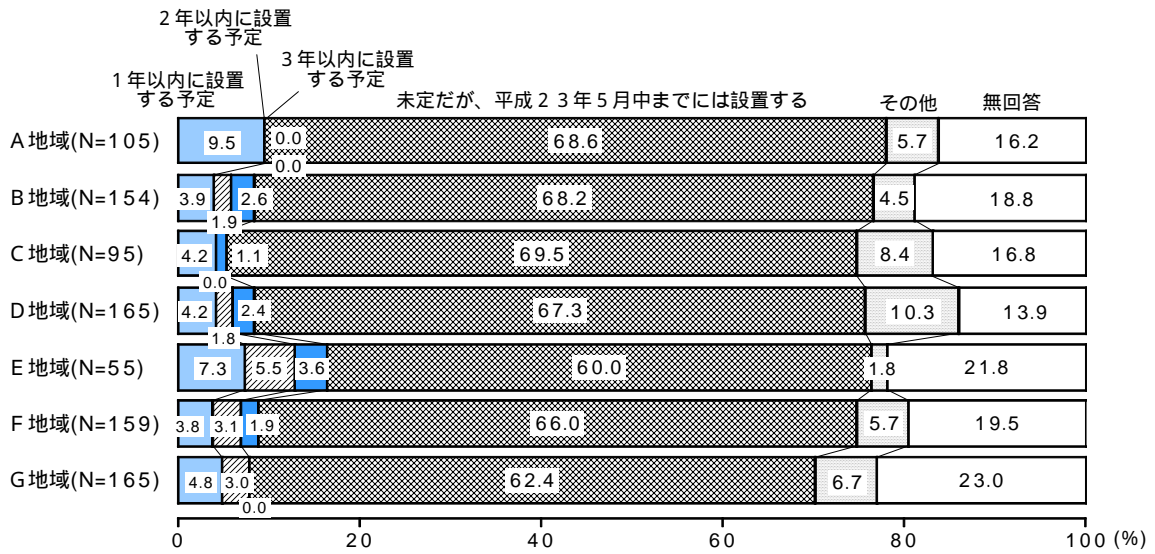
住宅用火災警報器の予定設置時期について、「未定だが、平成23年5月中までには設置する」が66.3%と高くなっている。前回調査(平成18年)と比較すると、「1年以内に設置する予定」、「2年以内に設置する予定」、「3年以内に設置する予定」ともに今回調査で減少している。(図7-2)

図 7-2-1 居住形態別 住宅用火災警報器の予定設置時期



居住形態別にみると、「1年以内に設置する予定」は共同住宅で持ち家で5.9%、一戸建てで持ち家で5.5%など高くなっている。「未定だが、平成23年5月中までには設置する」は共同住宅で持ち家、一戸建てで持ち家で約7割となっている。(図7-2-1)

図 7-2-2 地域別 住宅用火災警報器の予定設置時期



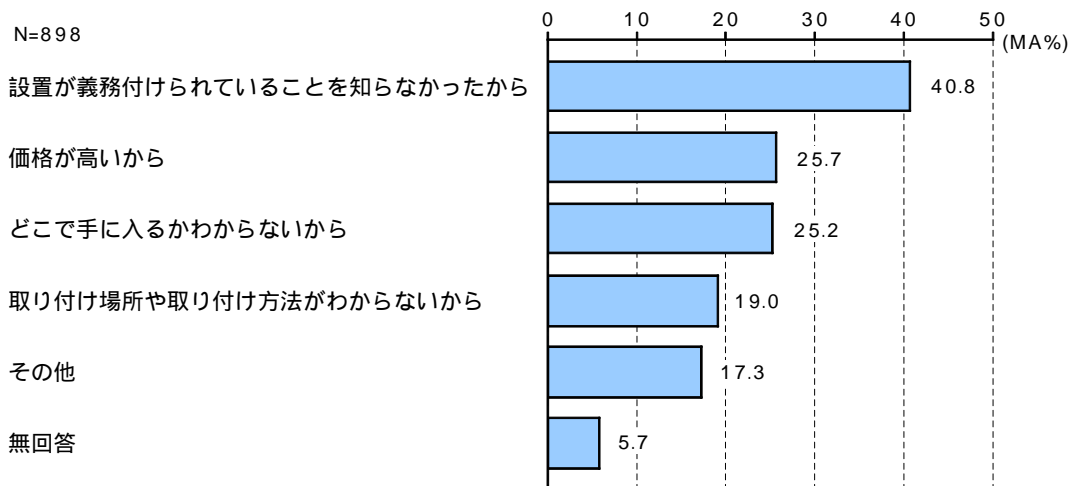
地域別にみると、「1年以内に設置する予定」はA地域で9.5%と高くなっており、E地域では「1年以内に設置する予定」、「2年以内に設置する予定」、「3年以内に設置する予定」ともに他地域と比べ、高くなっている。(図7-2-2)

### 7 - 3 . 住宅用火災警報器を設置していない理由

【問 21 で「 2 設置していない」と回答された方におたずねします】

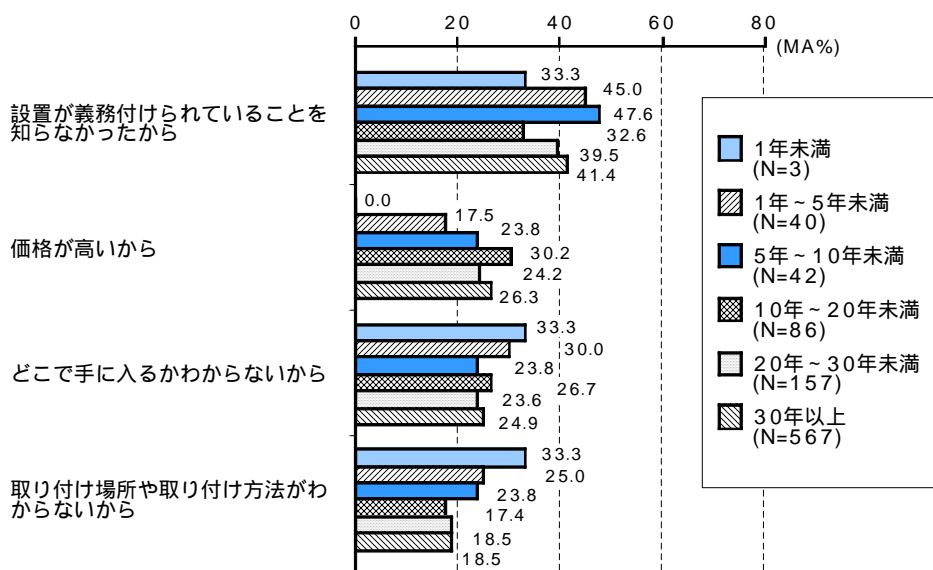
問 21 - 2 住宅用火災警報器をまだ設置されていない理由は何ですか。あてはまるものすべてに印をつけてください。

図 7 - 3 住宅用火災警報器を設置していない理由



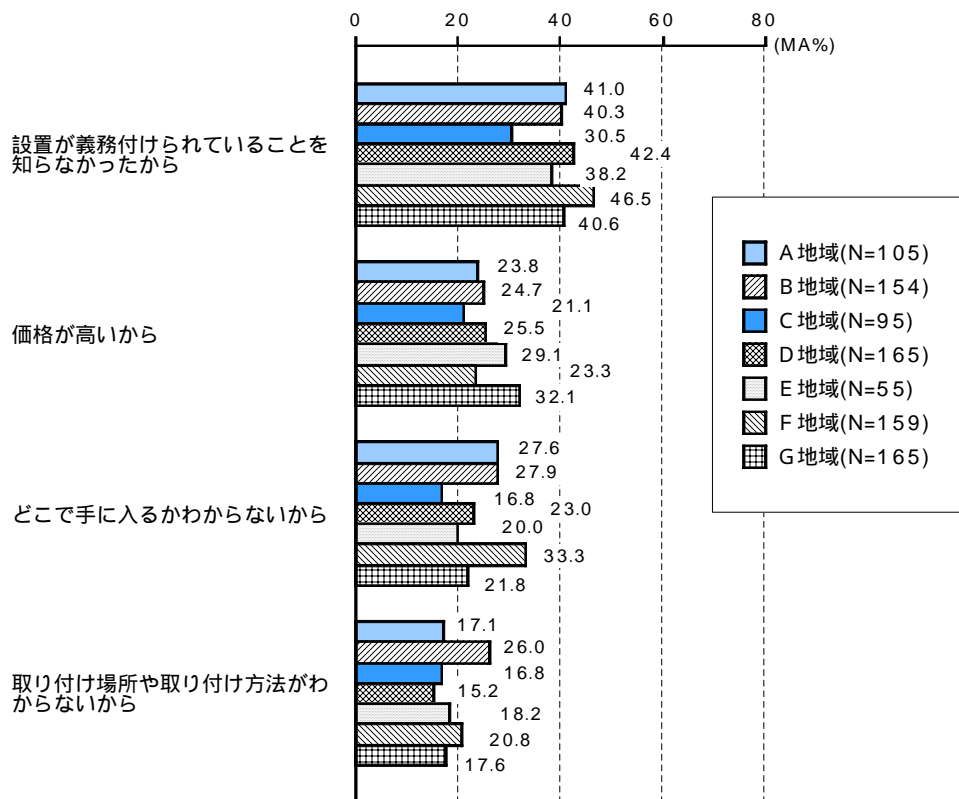
住宅用火災警報器を設置していない理由について、「設置が義務付けられていることを知らなかったから」が 40.8% と高く、次いで、「価格が高いから」が 25.7%、「どこで手に入るかわからないから」が 25.2% となっている。(図 7 - 3)

図 7-3-1 在住年数別 住宅用火災警報器を設置していない理由



在住年数別にみると、「設置が義務付けられていることを知らなかったから」は、1年～5年未満、5年～10年未満で高く、「どこで手に入るかわからないから」、「取り付け場所や取り付け方法がわからないから」は在住年数の短い人の方が、割合は高くなっている。(図 7-3-1)

図 7-3-2 地域別 住宅用火災警報器を設置していない理由



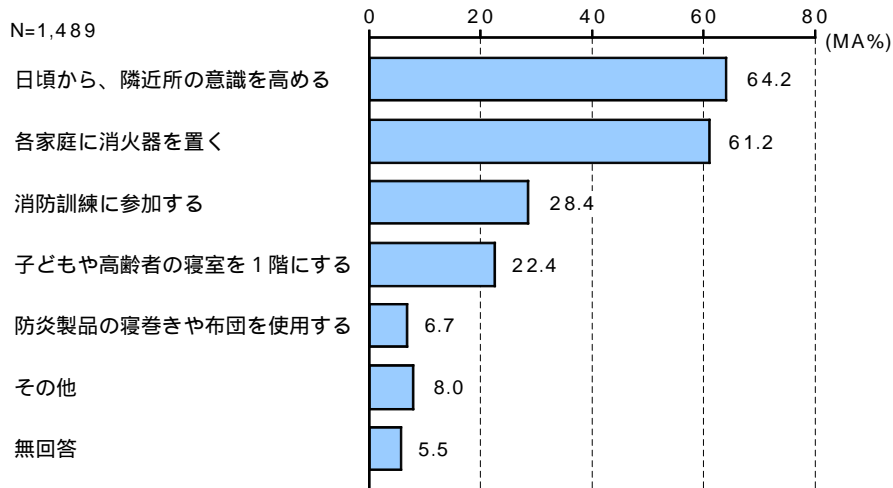
地域別にみると、「設置が義務付けられていることを知らなかったから」、「どこで手に入るかわからないから」はF地域で高く、「価格が高いから」はG地域で、「取り付け場所や取り付け方法がわからないから」はB地域で高くなっている。(図7-3-2)

## 7 - 4 . 住宅火災による死者を減らす方法

【すべての方におたずねします】

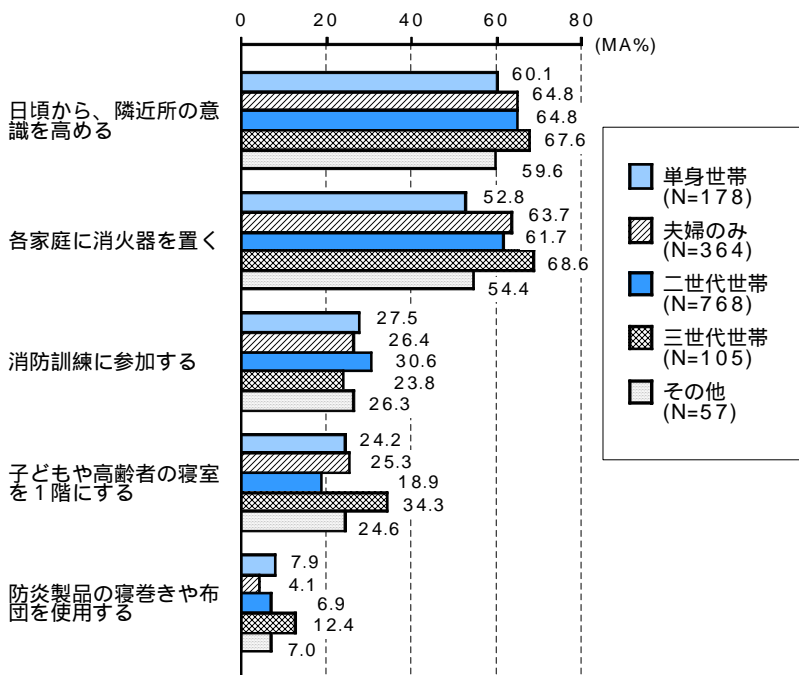
問22 住宅用火災によって、毎年千人を超える死者が全国で出ています。住宅用火災警報器の取り付け以外に、住宅火災による死者を減らすにはどのような方法があると思われますか。あてはまるものすべてに 印をつけてください。

図7 - 4 住宅火災による死者を減らす方法



住宅火災による死者を減らす方法について、「日頃から、隣近所の意識を高める」が64.2%と高く、次いで、「各家庭に消火器を置く」が61.2%、「消防訓練に参加する」が28.4%、「子どもや高齢者の寝室を1階にする」が22.4%となっている。(図7 - 4)

図7-4-1 家族構成別 住宅火災による死者を減らす方法



家族構成別にみると、「日頃から、隣近所の意識を高める」、「各家庭に消火器を置く」ともに三世帯世帯を中心に、世代が多い世帯の方が割合は高くなっている。(図7-4-1)